

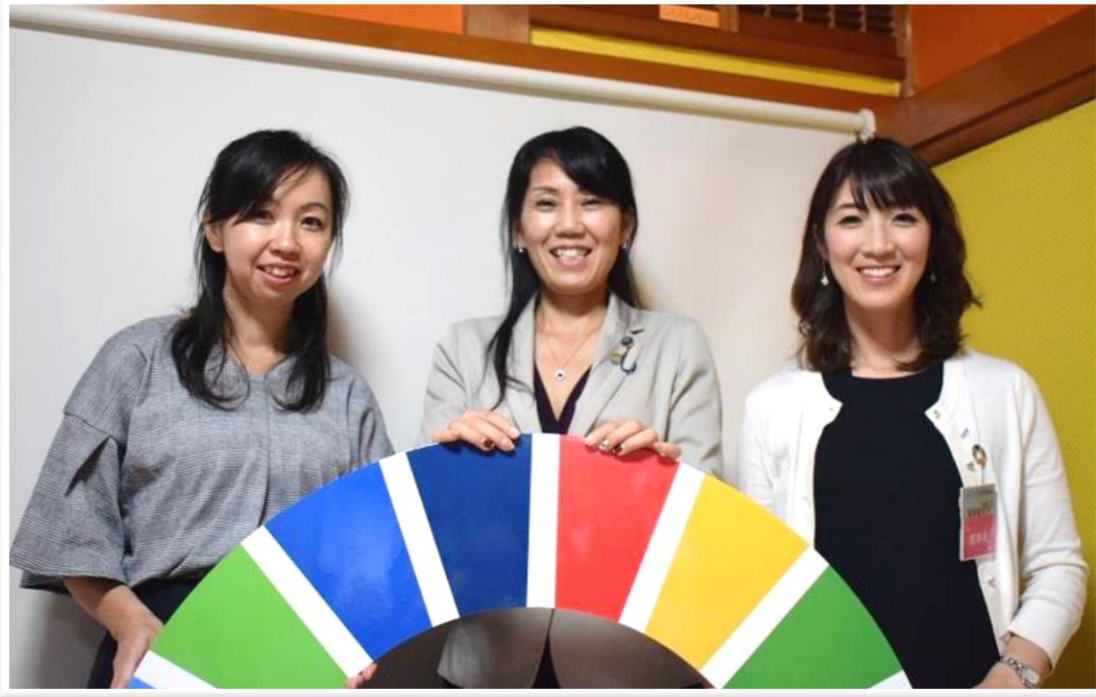
対談者

NPO法人SmileyDream  
櫻井 雅美 様

半田青年会議所 理事長

曾根 香奈子

理事長



## 「受けた恩は 次の世代に送る」

曾根 香奈子（以下曾根） 今日はお時間を  
いただきましてありがとうございます。

NPO法人SmileyDream

理事長 櫻井 雅美様（以下櫻井） ち  
らこそよろしくお願ひします。杉本さん

もJCに入られたのですね。

杉本（会員） はい。8月に入会して、

ともに活動することになりました。

曾根 はんだこの川田先生からのご縁

がひろがりましたね。

櫻井 川田先生からJCの方が子どもの

ことで話しを聞きたいといっているの

で、ぜひ来てくださいたいと言うメールをい

ただいていました。

杉本 それで、櫻井さんがその場に居た

のですね。

曾根 実現できるかはともかくとして、

私が必死に色んな話をしたからです。

櫻井 熱い想いがあるので会ってみて、

とメールに書いてありました。

曾根 そうですか、お恥ずかしいです。

櫻井 子育てとJCが繋がるってすごい

ことだと思えます。子どものイベントな

どで、行政と子育てとJCが繋がるって

あまり聞かないので、子育て分野への刺

激になってとても良いと思います。特に  
半田は子育て支援に関して、分け隔てな  
く、いろんな人達を歓迎していますね。  
他では、登録している団体や子育て支  
援に関わっている方向けなのですが、半  
田の誰が来てても良いという雰囲気はとて  
もいいなと思います。私は武豊に住んで  
いるのですがこういう場が無くて、半田  
での事業に参加しています。場所がある  
ことでつながっていくのは良いですし、  
参加しているとその地域に愛着が湧きま  
すね。

曾根 今のJCは約四割しか子どもがい  
る世帯がないのです。

櫻井 みんな若くて独身ですか。

曾根 はい。全国的に見ても、子どもが

いる世代が多くないのが現状です。その

ため、子育て事業は、もともと新入会員

を誘うために実施している側面もありま

した。小学生を対象にすると、その親御

さん世代に三十代が多く、会員として誘

えるから、事業をやるといふのだと聞い

たことがあります。

櫻井 そうだったのですね。

曾根 ただ、今の状態をみると、全国的

に見ても子どもがいる世代が少ないです

し、さらにその中でも子どもがまだ幼少

期の人が多いのです。

櫻井 女性が第一子を出産する平均年齢

は、31歳になっていきますね。

曾根 世代的には遅くなって来ています

ね。JCでも三十代後半の独身とか多い

です。

それでは、テーマがありますので、テ

ーマに沿って話しをさせていただきます

す。

私達はJC活動もやりますし、仕事も



やりません。今でないとJICは出来ないの  
で、頑張つて活動しています。ただ、家  
庭や子育てもある、というのは女性であ  
っても、男性であっても基本的には一緒  
であると思いますが、人によってそのス  
タンスは違うと思います。

そこで、櫻井さんにとって、「子育て」  
と「働く」というのはどのようなスタン  
スで歩んでこられたのか、お聞かせいた  
だけたらと思います。

櫻井 はい。私は元々、結婚して子ども  
が生まれるまでは、商品開発の仕事をし  
ていました。その仕事がすごく好きでか  
なりハードに仕事をしていました。夜1  
1時ぐらいまで仕事をして、最後に鍵を  
締めて帰ることが多かったです。仕事が  
楽しかったことが嬉しくて、もうひたす  
ら仕事をしていましたね。さらにその頃  
は土曜日も半日出勤でしたし、残業時間  
が多くても、何も言われなかった時代で  
したので、好きなかだけ仕事してください  
と言われていましたし、仕事が楽しくて  
しようがなかったです。

当時は春日井に住んでいて、子どもが

できたとは分かった時から保育園を探し始  
めたのですけど、当時はまだ0歳児を預  
かってくれる保育園は無かったです。  
その会社の研究職で妊娠したのは私が  
初めてでしたので、社長は「せっかくだ  
から復帰したら。」と言ってくれました。  
当時は育休制度もなくて、1ヶ月位の  
産休で復帰出来るでしょう、という感じ  
でした。

私には初めての子どもでしたので、産  
後1ヶ月で仕事が出来ようになるのか  
分かりませんでした。パートさんから「社  
長そんなの無理です。」と言われても、「そ  
うなの。」と聞くぐらい何も分かっていま  
せんでした。

曾根 そんな時代だったのですか。  
櫻井 今ではありえないですね。

社長は私のことをとても気にいつてく  
れていたのので「復帰できたらします。」と  
は言ったのですが、実際に産後は全然そ  
んな状態ではなかったです。

実家が武豊で親からも同居を勧められ  
引越してきました。息子が2ヶ月くら  
いの時に引越し、武豊での生活がスタ  
ートしました。

子育ては忙し過ぎて、朝も昼もよく分  
らない生活で大変なのですが、一方で生  
活に変化がなくて退屈に感じることもあ  
りました。

曾根 子育てしてきますと、あつという  
間に時間が過ぎて夕方になりますしね。  
櫻井 そうですね。仕事したいってずつ  
と思っていました。でも仕事をしてしま  
うと、子育てができなくなると思ったの  
です。

後に下の子が生まれましたが、その子  
が病気で亡くなったことと同時期に、武  
豊町でネグレクトによる児童虐待事件が  
あったことがきっかけで、今のこの活動  
を始めました。

当初は報酬が無く、本当にボランティア  
活動でした。数年活動を続けていて、  
ある時はっと気付いたことがありまし  
た。一緒に活動をしているママ達がパー  
トなどで働き始め、特に一生懸命活動し  
てくれていたママほど、どんどん活動か  
ら抜けていくのです。その時は寂しいと  
いうよりも、私はこれから先、何をどう  
してしていきたいのかと考えてしまいま  
した。その時に法人化し、収入のある団  
体にしたいと思いました。

この勤務時間は10時から15時で  
す。お母さんが子どもを朝送り出して、  
少し家のことをやってからここに来る。  
そして、子どもが帰って来るまでには家  
に帰れるというのが、スマイリードリー  
ムの考えでした。

そのスタンスはずつと崩していない  
し、崩したくないです。自分の時間も欲  
しいし、少し収入も欲しい、子どもと一  
緒にいる時間も大切になりたい人が働ける  
場所があると良いというスタンスです。  
緩やかな感じで長く続けていくという形







で運営をさせていただいています。他の人からは、私がバリバリやりそうな人に見えるらしく、もつと事業展開したらどうですかとよく言われるのですが、それは少し違うかなと思います。芳金（会員） 今聞いた話と、私が抱いていた櫻井さんのイメージとは違いがありますね。以前に違う場所で会った時から良く見ていたのでですけど、その時は、本当にこのスマイリードリームというところで、きつと何か凄い企画が進んでいくのかな、ということを感じていました。ですから、今話しを聞かせていただいてそのギャップが大きいです。櫻井 実際にそういうことをやろうと思えばやれなくはないし、やりたい気持ちも無くはないです。でもそうなる、私が一緒にやりたい、サポートしたいと思っている、子育て中の女性の気持ちから

は離れてしまおうと思います。子どもが小さくてやりたいことができなくて、辛い思いをしているママがたくさんいて、一緒に何かできるいいなと考えています。今の女性活躍推進という意味での「働く」からすると、最初のステップの部分なのかなと思います。芳金 言ってしまうと、長くやればやるだけスタッフが順々に入れ替わっていくという感じですか。櫻井 そうですね。初期メンバーはもう誰もいないです。ずっと人材育成という感じですね。芳金 気心を知れた仲間です。いくつは楽じゃないですか。それでも結局みんな同じように時間を重ねていってしまうから、そういう意味では、当初に櫻井さんがやろうとしていたことからは、ずれていってしまいますね。櫻井 一時期は、その一緒にやっているメンバーと、その時その時で抱えていく課題と一緒にスイッチしていてもいいかなって思っていました。ただそれをやってみると、みんな自分の課題だけで、継続的に事業として残っていかないので、止まり、その課題を引き継いで行くことができ、解決に結びつくといいのかなと思います。子育て3年神話と言うのですが、保育園入るまでの3年、保育園、小学校低学年、高学年、中学、高校と、3年で家庭の状況が大きく変わります。その結果、課題があったとしても、3年間我慢すればなんとかなると思う方が多いのです。そのため、20年経っても30年経っても、子育ての課題は見過ごされてしまっても、何も解決していかないのです。私は子育てをしている人の話を聞いて、少し落ち着いた目線から事業化でき

ないかなとか、課題としてちゃんと行政にあげられないかなと考えるようになりました。自分が今までやってきた経験が、そのまま活かすことができれば良いなという気持ちで議員になりました。子育て中の女性の社会課題解決の選択肢のひとつとして議員という道もあると思っていたら嬉しかったです。曾根 実は何年か前にネグレクトの本を読んだことがあります。でも途中で読めなくなりました。今でも覚えていません。櫻井 春さんが書いた本ですよ。曾根 そうです。自分ではその時の記憶が凄く残っていました。その関連だと思えますが、何かのSNSで櫻井さんのことを見ました。そこから櫻井さんという名前を知って、スマイリードリームさんがNPOになったとか、ママフェスを運営されたこととか、その後議員になったなど、凄い方というイメージです。自分がまだ高校生か大学生だった時に私がたまたまその本を読んだことと、それをきっかけとしてSNSで追いかけていたので、けっこう昔から櫻井さんのことを知っていますね。櫻井 歴史を感じますね。曾根 その上、私が働き出した当初は、武豊高校で非常勤講師をしていました。印象に残ったと思います。ですから、櫻井さんが議員になったということは凄く印象に残っています。櫻井 そんな風に思ってくれた人がいたなんて、もつと早く知りたかったです。曾根 櫻井さんのSNSを見ていて感じましたが、楽しくやっていたら誰かが見てくれるかなという想いは私も一緒です。やはりどこかで誰かが何かを感じてくれれば良いなと思います。ただ、そのようなつもりで発信してい

る訳ではないのですが、子育てしている時に、外に出ることに對して悪いイメージを持つ方がいます。確かに、子どもを母に預けたりとか、家族の誰かが見てくれたりしているから、自分は外に出させていただいているという実感がありません。ですがその実感があるからこそ、生ぬるいことはしては行かないというバイタリティにはなりません。

このような感情を抱いている人って、いっぱいいると思うのですが、時代が変わっても、まだまだお母さんは子どもを見てないと駄目だという認識がありますね。私の母親は60後半で、世代的にそのような認識があるから、外に出てようがどうしようが、私に對して「貴方はお母さんのだから、貴方がちゃんと面倒を見なさい」と言います。

確かにその方が望ましいということ、理解してはいますので、子育てもしつかりとやっています。ですがその一方で、「お母さんだから」という理由に對しては、今、男だからとか女だからという境目を無くそうと活動している中で、今はその難しさを凄く常に実感しているのが現状です。

今は女性初と言われることも、しょうがないことだなというように吹っ切れました。ですがそんなつもりでやってきたつもりでは無かったので、外見や性別だけで、すぐに初という言葉が出てくることに對して、自分の本質は見極められないのかなとか考えていました。

今ではそれで広告塔になるのなら、それでもいいやと思って活動をしていますけど、やはり始めはそこに違和感を覚えていました。

櫻井 真面目ですね。私は、女性初と言われることは素直に嬉しいです。  
曾根 私もやっと今そうになりました。

櫻井 ただ私なんかは広告塔になっても、そんな女らしくないし、女性の代表と思われても困ります、と常に言っています。多分、私はここにいる男性の誰よりも男らしいと思います。

曾根 それは私もそのように思います。櫻井 むしろ女性らしくしないとイケないというプレッシャーはあって、本当に素のままの自分で大丈夫ですか、と思います。

曾根 あとは子どもがいても活動をしているということが付加価値になってしまふのが気になります。

男性だって同様に子どもがいて一緒だと思ふのに、女性であるということだけで、付加価値が付いてしまうという所に、最初は気持ちのギャップがありました。

櫻井さんが言うように、現在はそれでJCの知名度が上がれば良いなという気持ちにはなりませんが、はじめはそういうことには凄く敏感にはなりましたし、同じ様に感じる人は、まだ私達の世代には多いのかなと思います。

櫻井 今男性がイクメンと言われて、男性も親だから子育てするのがあたりまえという時代になってきて、それもプレッシャーだと思ふのです。

子育てについては。夫婦で話し合っ決めて良いことで、男性が稼ぐ人で、女の人が専業主婦というパターンも、またその逆も、本人同士が納得しているのなら、全然問題無いじゃないですか。

現在、男性も育児をする「べき」とよく言われているのですが、女性が家事をする「べき」と言われていた時代と同じことを、また男性に對してもしようとしているように感じます。

このような最近の風潮には、とても違和感を覚えていて、イクメンという言葉は好きではありません。イクメンという

言葉の定義として、それが働く男性も育児をするべきという意味なら、おかしいと思います。男性も育児休暇を取得するべきではなくて、取りたい人が取れる制度にしなければいけないのです。

女性活躍推進も、女性の管理職を増やすという目的を達成するために、女性が昇進している事例があります。

女性が昇進すること自体は悪いことではないと思いますが、中身の伴わない人が昇進していった時には、周囲との軋轢が生まれると思います。

女性初の間も良いとは思いますが、その中身の方が重要で、冠が着いたせいで苦しめられる女性もいるということに気付いていただきたいです。

肩書きが付いたせいで、子育てを必要以上にがんばってやらないといけないと気負ってしまうのです。でも頑張っている一方で、あの人はお母さんに手伝わってもらっているから出来るのであって、いふほど子育てしていないとか言われたりしてしまいます。

曾根 実際に私もそのように言われていますね。

櫻井 私も言われていましたよ。どのような子育ての仕方をしていても、ちゃんと子どもが育っていればそれで良いではないかと私は思います。

親に手伝わってもらえていることも、親との関係を上手く結んでいるという、その人のスキルの一つなのだと思います。子育て中の部分だけ取り上げられて、親がいて手伝わってもらえて良いよねって言われると納得できない部分はあります。長い目で見れば介護の問題もあります。

女性活躍推進は女性が活躍しやすくなつて、励みになるということが目的であつたはずなのに、数字を達成することが目的になつているのは、おかしいことだ





と思っ  
曾根 女性活躍推進について、話を  
いましたら急に聞きたくなりましたので  
質問させていただきます。  
今、青年会議所という組織は8割9割  
が男性です。愛知県でも約2200人の  
うち、女性は120人程で、全体的にも  
1割2割なのです。  
私や杉本さんといったメンバー達は、  
男女ということは気にせずやっていま  
すが、女性をたくさん入れましようとい  
うような動きがあるのです。  
青年会議所は、女性をもっと増やして  
いき、女性が持っているものを取り入れ  
ていく団体でなければならぬと言われ  
ています。私はまずJCがそのような  
組織になるには、どうしたらいいのかな  
と考えています。  
そこで、どうしたら青年会議所が、そ

のような女性の参加者が増えるような組  
織になるのか、櫻井さんの考えを教えて  
欲しいです。  
櫻井 極端な話をさせていただけると、婚  
活するとかでしようか。  
杉本 それは、どのような意味ですか。  
櫻井 想いが一緒の人が集まると、そこ  
には仲間意識が芽生えて、良い出会いの  
場になりやすいと思います。  
例えば、町を良くしたいという想いの  
ある人が集まれば、同じベクトルがある  
ので、気が合うことは難しくないと思  
いますし、周囲も同じJCということに  
援しやすいです。そこで上手くカッ  
プルが成立すれば、周囲もともうれ  
しいのではないかと思います。  
あまり婚活に特化することはないと思  
いますけど、良い人と出会えるという  
意味では、JCはとても良い場所です  
よね。  
曾根 それは凄く面白い意見ですね。4  
割しか既婚者いないわけですから、こ  
れからは婚活という手法もアピールし  
ていくと、面白いと思います。  
杉本 そうですね、夫婦で活動してい  
けるということですよ。  
櫻井 夫婦での参加ということになれ  
ば、今まで男性だけが出てきている家  
も、女性が出てきやすくなったりする  
ので、必然的に女性の割合は増えてい  
くと思います。基本的に、それぞれが  
仕事以外にも想いがあって活動をして  
いる人たちです。  
曾根 何かを求めてJC活動をしている  
はずですからね。  
櫻井 ということは、JCには良い人が  
いるよって言う話もできますね。  
曾根 そのような人たちの集まりとい  
う意味ではそうですね。  
櫻井 自分でPRしなくても、こいつ良  
いやつだからといって、皆が紹介でき

すよね。JCでその人と付き合いのある  
人達は、この先もずっとお付き合いを  
していく人たちになるはずですよ。  
曾根 凄く意見ですし、凄く視点で  
したので誘い文句として説得力がある  
と思います。  
櫻井 もし、そのような人たちが結婚  
して子どもが出来たら、家族付き合  
いもできて、こんなに楽しく過ごす  
ことができるという、すばらしい目  
標が見えると思います。結婚後の  
ビジョンが見えやすいですよ。  
結婚をする前に、将来のビジョン  
を見ることがなかなか無いので、と  
ても良い場所だと思っております。  
曾根 おっしゃる通りです。安定して  
いるし、意識は高いし、活動的  
ですよ。  
櫻井 紹介をする時に押しやす  
いんですよ。例えば、一緒に活動  
していると、独身でも子ども向け  
の事業の中で、子どもと遊んで  
いる子どもも好きな姿から、パ  
ートナーとなった時の姿が想像  
できますし、少なくともコミュニケーション  
能力はみなさんバッチリじゃない  
ですか。  
曾根 JCではそのような能力も  
鍛えられますからね。  
櫻井 婚活って本当に大事な  
ことですよ。少し前まではコン  
パの延長みたいな取られていま  
したけど、安定した家庭の中  
にいたいことって、精神的にも  
とても安定すると思います。もち  
ろん大変なことにもあります  
けど、でも大変なことにな  
った時にこそJCの繋がりがあ  
ること、相談できたり、愚痴を  
言ったりと、離婚の危機を  
乗り越えるきっかけにもなり  
ますよ。  
夫婦でJCに参加することで、そ  
れぞれが話を聞いてもらったり、  
子どもができて、他の誰か  
が見てくれていたりするよ  
うな関係ができていくのはと  
ても良

いと思います。

40才になって引退されても、また自分の子どもで関わりが持てたりすると、さらにいい循環ができますね。

曾根 J.C.やって一緒にやっていくことができたら良いですよ。

実際に知り合いの女性会員にもメンバーの方と結婚した人がいました。

櫻井 そういうことを事例として取り上げるといいですね。J.C.同士で結婚して、その後はこんなに上手くいっていますよという形で。

曾根 それ以外でも、正会員ではないですが、毎年青年会議所とかかい号という1週間乗船して研修を行う事業がありまして、それがきっかけで結婚された方がいます。

櫻井 そういう事例をドンドン取り上げていくと楽しいですね。それをアピールすること、J.C.に入るのも楽しみになると思いますし、実際に結婚するカップルが出来たら雰囲気も盛り上がって活動のモチベーションも上がると思います。曾根 とても面白そうですね。勉強になります。

櫻井 外村さんは最近お子さんが生まれたと聞きましたが大変ではないですか。

外村(会員) 大変です。子育てや家事を手伝うよと言ったり、やってあげるよと、ついうっかり言ったりすると機嫌を損ねてしまいますね。

櫻井 それは禁句ですね。

外村 家事を何もやってないわけじゃないんですけど、洗濯や掃除など自分でもできることをやっているつもりではないですが、それでも、奥さんの方が大変なことは間違いないですね。日中は奥さんがずっと子どもと二人きりで、話し相手も無く、周りの社会から隔離されているように感じていると思うので、家に帰ってから奥さ

んに文句を言われるのも役割のひとつかなとは思っています。

櫻井 子育て中の女性は、ストレス解消として何かに当たりたいことがあります。本当に旦那さんを悪く思っているわけじゃなくて、たまっている不満を言いたいし、どこかにぶつけたくなるのです。ぶつける先として旦那さんが一番安心であたりやすい立ち位置なんですよ。外村 でも、時にはどうしても腹の立つときもありますよ。

櫻井 それをまた、男の人間同士で共有して、愚痴を言うのも大事だと思います。

芳金 男同士ではなかなかそのへんの愚痴は言わないですね。

櫻井 今、私の感じている問題が正にそれ、今後は弱音を吐けないお父さんたちへの支援が必要になるのではないかということがあります。

昔はお母さんたちが弱音を吐けず、子育てをやって当たり前と言われる時代でした。まさに今男性にも同じような問題として、父親も子育てをやって当たり前と言われ、悩んでいる男性が多く、このままでは間違いなく男性の育児ノイローゼや、家に帰りたくない症候群が出てきます。

家庭では子どものことばかり話すのではなく、夫婦でどのようにしていくのか、10年後20年後どう過ごしていきたいのか、そういう話をしっかりとしないと、こんな人だとは思わなかったとか、価値観が違うとかで、離婚の危機に陥りやすくなります。

子どもできた瞬間に子どもの事で手一杯になってしまったって、夫婦のコミュニケーションが取れなくなるので、すれ違いが起きてあたりまえの状況になると思います。それをお互いの価値観が違っていると断ち切ってしまうのは、本当にもったいな

いと思います。

今のままの女性活躍推進が進めば、私は離婚率が上がると思っています。

本当に夫婦の時間というものは大切で、子どもを預けて夫婦で出かけるということは遊びではなく、家庭に必要なことだと思っています。たまには将来の話や、今大変に思っていることをゆっくり話すとか、一緒に映画を見に行つて、一つのものについて話をするとか。

多分、夫婦だからこれくらい大丈夫だという根拠のない自信がどこかにあって、その安心感が、離婚率の上がり続ける原因ではないかと思えます。やはり夫婦の時間をあえて作り、コミュニケーションをとることが大切だと思います。

そこを考えると、J.C.なら夫婦で活動に参加できるし、夫婦に第三者が関わる





への参加ですと、もう片方からはただ遊んでいただけだと思われているかもしれないですけど、夫婦で参加して楽しむ事ができ、子どもがいれば一緒に楽しむ仲間がさらに増えて良いと思います。

**曾根** それが実現出来ればJC変わったよねって言えるかもしれないね。

とても楽しい話題ですが、かなり脱線してしまいましたので、テーマに戻らせてください。

では、理事長として女性でトップの役職ということ、櫻井さんと私は立場が一緒の立ち位置でやらしていたので、考えるんですけど、何か組織のリーダーとして考えていることですか、自分は組織のリーダーとしてこうありたくてやっていることですか、心がけていることがありましたら教えてください。

**櫻井** 小学生の時には、名古屋でジュニアリーダーに入っていました。結構活動が盛んで、人前でしゃべったり、小さい子向けのゲームをやっていたりしたので、人前に出ることも全く緊張しないのかもしれない。自由に話すのでしたらいくらでも話せるのですが、逆に決まった文章をきつちりと読むのが苦手ですね。中学時代からは学級委員や、実行委員長をよくやっていました。

自分がやりたいようにやれることをやっていたらリーダーになつていたという感じですね。現在だとPTAがそうですが、委員長・副委員長・書記・会計とあったら、私は委員長をやりたいです。逆に、書記とか会計は苦手です。

基本は自由に動いて、それに「そうだよね」って言うてくれる人と一緒にできるのが楽しいです。わがままでですけど、それが楽なので、結果としてそうなります。

ただ、自分の考えを押し付けられないとい

うことと、いろいろ人がいて自分に反対をする人も大切な人だということには、とても気をつけています。カチンとくることを言う人や、何故そのような考えになるのですか、といたくなるような人の意見を、否定的に思わないようにかなり気をつけています。顔に出ているかもしれないですけど、出来る限り、その人の意見を一旦聞き入れて、「なるほどね。そういう考え方もあるね」と、落ち着いて聞く努力をしています。昔はできなかったことですね。

**曾根** 私もそうならないように気をつけます。

**櫻井** 結果として、自分の思考の幅にながったので良かったと思います。先輩の女性に「あなたはすごく頭の回転も早いし、いろいろテキパキやってすごいと思うけど、ひとつ足りないことは、スピードが早すぎて周りが見えてないことだね。だから、人の意見に耳を傾けたり、人が立ち止まっていたりするときには、一緒に立ち止まってみなさい」と言われたことがきっかけで、自分が立ち止まるのが苦手なことに気がついた。それが苦手で、効率の悪いことにイライラしてしまうことに気づきました。

また、その人から「そのことを心掛ければ、あなたは成長するから」と言われたので、人が立ち止まっているときには、なんで立ち止まっているのだろうと一緒に立ち止まるようになってきました。ようやく最近、できるようになってきたかなと思います。

ただ、その場所で長く立ち止まって考えすぎると、自分らしい結論にたどり着けないことがあるので、そこは気をつけるようにしています。

**曾根** 私も人を待たせることが嫌だと伝えた時に、待つのが嫌だからですよねと言われてはっとしたことがあります。



私はさっさと行ってしまう質ですから、確かに人は待てないなと思いました。その代わり自分が遅れた時は待つてくれなくていいやと思っています。

でも櫻井さんが今話してくださいました、人の話に耳を傾けることという言葉も同じくらい肝に銘じます。

**櫻井** 実はそこから得られるものがあったのだと言っている時、私自身も知りませんでした。

頑張れば何でも出来るのと思っていいのですが、結局、出来上がった物は自分の幅まででしかなかったのです。ですから、幅を広げてくれる意見のありがたさを本当に感じました。

もちろん、私とは違う意見で受け入れられない意見もたくさんありますが、そのような意見があるとすることは、そういう視点で見ると人が絶対に他にもいると

いうことを、どこか頭の片隅にでもとどめていたほうが、良いのかなと思います。その結果、周りから「大人になったね、丸くなったね、怖くなくなったね」などと言われるようになりました。

**曾根** 気をつけます。人の意見は聞けば聞きますけど、聞きながら私とは意見が違おうと思うことがあったりすると、結構右から左へと流してしまつて、話を聞いてないねとよく言われていたりします。

**櫻井** それはそれでストレスを貯めないために大事なことですよね。聞きすぎるとストレスが貯まるので、聞き流すことも大切なことです。

**曾根** そうなのです。違う考えの人の意見を聞こうとすると、悩んでしまいますし眠れなくなつてしまつて、何もできなくなつてしまうので、私は気にしないのだらうなと思います。

**櫻井** 私もそのような意見は心のどこかにとどめておく程度です。

基本的にそれに従つて何かをするっていうことは、もしかしたら数年後にある



かもしれないなと思いつながら聞いています。特に年配の方に言われたことは、自分の年齢を加味して、60才くらいの方に言われたら、あと10年したらそういう考えになるかもしれないので、初めから拒否することはないなと思いつながら拒否しています。その結果、今の私には少し早いかなと心のなかで思うこともあつたりします。

**曾根** なるほど、とても参考になるご意見です。

**櫻井** ですから、NOとは言わず、顔にもNOと出さないよう努力しています。

**曾根** かつこいいですね。JCは組織になつていたので、最初は平を経験してその後、副委員長や委員長、さらに副理事長と順番にやつていきます。それらの役職を経験した上で、現在の理事長職を預からせています。

全部の役を経験させていただいたおかげで、その立場ごとの組織の見え方は違つていて、その中でも長となる役職の立場のやりがいは、他の役職とは違うの

だと思つました。

長というのはおっしゃる通り、常に前を向いていていいものなのだと感じます。そして、私個人には長として引つ張つていくほうがあつていると感じていまして、逆に人のスケジュール管理とか段取りとかが職務の専務などの役職は無理だと思つています。

**櫻井** 私も自分の意図を汲んで動いてくれる秘書がいてくれたら、もっと自由にたくさんのことができるのと思つています。自分のできないことをやってくれる人、例えばお金の管理や、スケジュール管理をしてくれる人がいてほしいです。

自分でスケジュール管理をしているとダブルブックキングとかよくあります。たまたまキャンセルや変更で、運良くぐり抜けてきたので、大きな問題にはなつていないだけです。

**曾根** そういう星の下に生まれたのですかね。

**櫻井** 私の周りのスタッフは大変ですね。理事会の議事録に「今日は理事長が





忘れていたので欠席です。」って正直に書いていたこともありました。

**曾根** それは本当に周りの方々に助けられていますね。

**櫻井** そうですね、助かっています。自分と対極の性格の人が、一番フオローをしていてくれるということをととても感じています。

**曾根** 私も同じことを感じています。

**櫻井** やはりタイプが違う人がたくさんいるというのが大事なことかなと思いますし、それをまとめるのは大変ではあるけど、そこも含めて楽しんでしまえばいいのかなと思います。

お互いの役割分担がはつきりすると、相手に対して仕事をしないなどと責めることが少なくなりそうです。

自分はこんな性格で治らないと宣言をすることが大切だなと思いました。例えば、お金の管理をすることは出来ないの、会計の人が必要で、会計ができる人は素晴らしい能力を持っているなと思います。同じように、書記ができる人も素晴らしいし、人のサポートができる副の仕事も素晴らしいと思います。

何か役割を担いながら生きていく中で、自分が得意な位置にいるのが、一番楽し、楽しいし、しかも上手いくつと行うことは、子どもたちにもよく言っています。長が偉いということではなく、他の役職も同じ立ち位置だと思います。

そして、みんなそれぞれ仕事のスペシャリストとしてやっていくべきだと感じています。

本日は教育現場で、そういうことをもつと教えて欲しいと思います。例えば、多くの日本人は、自分は長の器じゃないから、書記とか会計ならやってもいいというパターンが多いと感じます。それならば、書記や会計ならやっても良いとい

う人より、やりたいと思う人が立候補して決まったほうが良いと思います。自分で自信を持って役割を果たしたほうが、自己肯定感が高くなると思います。

このことを子どもが早くから理解すると、自分の立ち位置が見つけられる子になると思いますし、もっと前向きな楽しい雰囲気があると思います。

長がこういう雰囲気を持った人だと、周りの書記や会計などの役職もすんなりと決まり、それぞれが熱意を持って仕事をやっていくことができるかなと思います。

JCはみなさんそれぞれ積極的に仕事をやっていくと聞いていますので、そういう感じなのではないでしょうか。

**曾根** 役割を与えられれば、そうですね。JCには苦手なことを頑張ることも必要なことだ考えかたもあります。

**櫻井** それは是非若いうちにおいて



ほしいですね。

**曾根** だからJCは40才までなのだろうと思います。

**櫻井** 私も若いうちだったらできたかな。今は余分なものを削ぎ落としていきたいので、極力やりたくないことはやらないようにしています。そして、やらなければいけないと思った時点で、苦手意識のある仕事は自分では得意ではないので、得意そうな人を探して渡してしまえます。そうしたら自分が楽になるので、次の新しいことにチャレンジできま

すよね。

長になる人って飽きっぽい人、次に気が移ってしまう人が多いのではないのでしょうか。

**曾根** 私もせっかちの飽きっぽい人の方がリーダーに向いていると思ったことがあります。

**櫻井** 私もすぐ飽きてしまいます。会議でとても白熱して話していたのに、その後の飲み会で別のことを話していると、そちらのほうが楽しくなってきました。わくわくして気持ち傾いてしまいます。

私の次にリーダーをやる人は、もっと落ち着いた人の方がいいのかなとも思います。

**曾根** そういう意味では、次にやる方がお見えになるのですか。

**櫻井** 50才が一つの区切りだと思っています。40才で拠点を構えたいと思って39才で達成したので、ちょうど10年の節目ですし、性格的に期限がないとドラドラとしてしまうので。想いがある人が運営をしていってくれれば良いかなと思います。仮にその時点で誰もやる人がいないのであれば、必要が無いということなので、やめてしまっても良いのかなとも思っています。

長く続いたから続けたいといけないうる気持ちではなくて、必要だと思っ人がいるうちは続けて、私もサポートしていきたく思います。逆に、みんなが負担に思うくらいだったら、やめてしまっって、また新しく好きなものを作ればいっと思ひます。

ただ大変なことを乗り越えた先にあるものもあると思うので、そこだけ、アドバイスができる立場であればしたいかなと思ひます。

曾根 勉強になります。でも櫻井さんがすごい量喋っていましたので圧倒されてしまひました。でも何十年も前から櫻井さんのブログなどを見て考えていた通りの性格でしたので、話ができるとても楽しかったです。

櫻井 そんなにずーっと前って言われると、自分が年をとったと感ひますね。

曾根 まだまだお若いですよ、これからです。

私は昔、専業主婦の母と同じように、普通に結婚して子ども産んで育ててと漠然と考へていて、自分が今のように理事長という役職をやるとは思っていませんから櫻井さんのことは名前だけは知っていました。

そして、自分がそうじゃ無い人生を課せられた時には、櫻井さんにあこがれていて、こんな人になりたいと思っていました。

櫻井 すごい名誉のあることでとても嬉しいです。

曾根 ありがとうございます。ですから、今日櫻井さんとのように対談をさせていだいだいたことで、私が櫻井さんの背中をみて、あこがれて、目標とさせていたのだと同じように、どこかで誰かが自分の背中を見てくれて、ちよつとは参考にと思っってくれる方がいてくれると信

じて、自分は後ろを振り向くことなく行くのかなという思ひが強くなりました。

今日はとても勉強になりました。

櫻井 私も自分のお世話になつた先輩方はまだご存命ですが、その方に恩返しをしたくても、大したことはできないので、自分の後に続く人たちに對して、その想いを引き継ぎ、何らかの影響を与えていくという循環を作ることが、先輩への恩返しかなと思っています。私が先輩としてできることは、後に続く人たちが頑張れば成果が出るような土台を作つていくことです。それが先輩への感謝と御礼になると思ひます。

「受けた恩は次の世代に送る」

この考へを最初に先輩方から聞いた時には、自分の中に落とし込めたわけではなくて、単純にカッコイイなと思ひ、真似をして言っていました。ですが、年を重ねるごとに、段々それが自分の言葉になり、実現したいと思っようになりました。

JCのように役員の任期を1年という短い期間で切つていくと、みなさんがその1年を大切に思ひながら過ごしていきけるので、より良い人材育成ができていくと思ひます。

私も今の役職が少し長くなりすぎたかなと思っています。次はみんなが短く切つていって、やれる範囲でやつてくれれば良いかなと思ひますし、私も人生が続いていく限り見守つていきたいという思ひはあります。

きつと皆さんもJCを引退されても、何かどこかで見守つていたりすること、このような組織は続いて行くのかなと思ひます。

曾根 そうなつたら良いですね。本日はとても楽しい時間でしたし、勉強になりました。ご多用の中お時間を作つていた

だきありがとうございます。

櫻井 こちらこそ楽しい時間をありがとうございました。本日はまだまだ話し足りないですけどどうしますか。

外村 これ以上は原稿大変なので、この辺で勘弁してください。

曾根 そうですね。ですが、私もまだまだ話したい事がたくさんありますので、ぜひまた話を聞かせてください。

### 櫻井 雅美 様

大学卒業後、頭髪化粧品メーカーの商品開発に就職。  
その後妊娠を機に出産前に退職し、1998年に長男を出産後、実家のある名古屋から武豊町に引越し、2001年に子育て中のママが集まって「困っていること」を助け合いながら頑張ろう♪という想ひのもと、任意団体Smiley Dreamを立ち上げる。2009年に法人化し、現在理事長を務められています。現職の武豊町町議会議員でもあります。

